



外務省 ODA 広報キャラクター ©DLE ODAマン

教えて！外務省！

知っておきたい国際協力 Vol.18

日本と長きにわたって友好関係を築いてきた中南米。この関係の重要性や、協力の必要性について紹介します。

答えてくれた人

国別開発協力第二課 上席専門官

中島 健さん

NAKAJIMA Takeshi

1992年外務省入省。経済協力、海上安全保障政策等を本省で担当したほか、在パラグアイ大使館、在ペルー大使館、在キューバ大使館、在パナマ大使館等に勤務。現在は国際協力のうち、対中南米協力を担当。



今月のテーマ

中南米

Q 中南米諸国と日本との関係は？

A 信頼を基礎とした長い友好の歴史と基本的価値観を共有する重要なパートナーです。

日本は、33か国ある中南米の多くの国との間で、19世紀後半から外交関係を有しており、これはヨーロッパ諸国やアメリカと同じ時期です。さらに19世紀終盤から20世紀の初めには、中南米への日本人の移住が開始され、現在約240万人もの日系の方が、ブラジル、ペ

ルー、メキシコ、アルゼンチンといった国に暮らしています。地理的には地球の裏側ですが、現地では、日本食をはじめとした日本文化が広く親しまれており、日系人が築いた現地における信頼を基礎に、日本への友好的な感情や理解が育まれています。こうした「絆」

がある点が、中南米との関係の特徴といえるでしょう。

また、民主主義や法の支配といった基本的価値観や原則を、中南米の多くの国々も共有しており、国際社会でも協力する重要なパートナーです。

Q なぜ関係強化が重要なのか？

A 国際社会におけるパートナーとしての期待、食料や資源の確保、ビジネスの可能性などがあるからです。

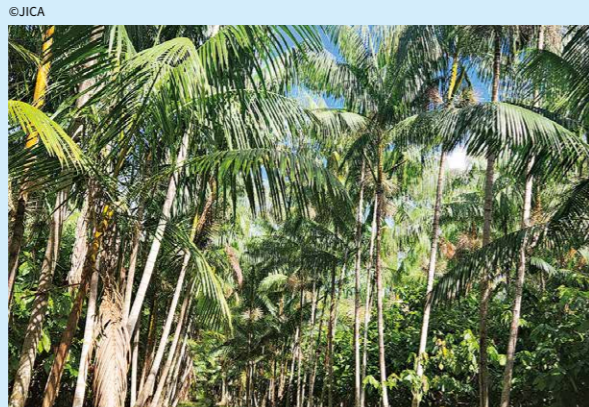
日本が中南米と関係を強化するべき理由は大きく3つあります。最重要で根幹をなす1つ目は、基本的価値観を共有するパートナーとして協力し合えることです。厳しい国際社会の中で、中南米は近年ますます重要性を高めており、中南米とは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化するため、より積極的に協力し合うことが重要です。

2つ目は、食料や資源の確保です。中南米には、大豆、トウモロコシ、牛肉、鶏肉などの食料資源や、豊富な鉱物・エネルギー資源が存在しています。安定したサプライチェーンが重要となる中、これらはわが国の食料・経済安全保障にとって欠かせません。たとえば、日本の大豆輸入元としてブラジルは2位、サケ輸入元としてチリは1位です。なお、このブラジルにおける大豆とチリにおけるサケの高い生産量は、日本が四半世紀にわたり行っ

てきたブラジルのセラード地域における農業開発支援や、チリの水産養殖プロジェクトの協力が実を結んだ結果です。

3つ目は、ビジネスの可能性です。中南米に進出している日系企業数は、その経済的潜在力を背景に、2010年の1,281社から2022年

の2,866社へと、約2.2倍に増えています。今後は、JICAが取り組むTSUBASA (P16-17参照)のように、中南米の現地企業が日本のスタートアップ企業の知見を活用し、共同で事業を展開するといった新たなビジネスモデルの増加も期待されます。



©JICA

日本は、林業・農業などを同時に行い両方の利点を最大限に生かす方法であるアグロフォレストリー農法に対する協力もブラジルに行っている。

Q これからさらに推し進めていく協力とは？

A ニーズに合わせて、気候変動対策、防災、格差是正、インフラ整備などを推し進めていきます。

経済成長を続ける中南米ですが、各国ではそれぞれ異なる課題を抱えており、日本はそうした各国のニーズに合わせた協力を行っています。一方で共通する課題もあります。たとえば防災がそれにあたります。中南米のなかでも太平洋側に位置するペルー、エクアドル、チリ、メキシコでは地震が、島嶼を含むカリブ諸国などではハリケーンが多く発生しています。わが国も同様に地震や台風が多いことから、自然災害に遭いながらも蓄積してきたがいの防災分野の知見を共有し、災害リスクの削減に取り組むことが、今後ますます重要になると思います。

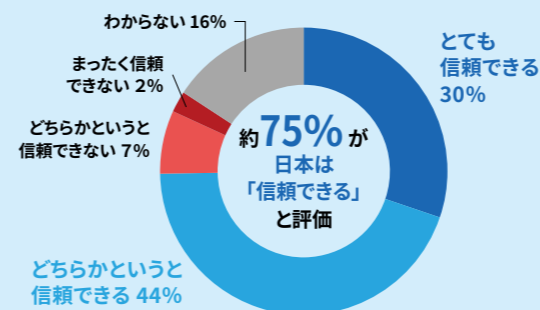
また、格差是正も共通課題のひとつです。経済成長が著しい中南米ですが、同時に貧困問題を抱えており、教育や保健医療サービスが十分ではありません。こうした課題に対しては、小学校の建設や医療機器の供与などの取組を、これからも進めていきます。

経済成長に伴うインフラの整備も重要です。都市部では交通整備が追いつかず、交通渋滞が大きな問題になっているところが少なくありません。公共交通システムや道路の整備などの協力も引き続き行っていきます。

日本が2020年に発表した「中南米（7か国）における対日世論調査結果」では、中南米に住む18歳～64歳の男女2,300人の約75%が、日本は信頼できると評価しています（下記の円グラフ参照）。これは、これまでに行ってきた協力や、培ってきた友好関係の結果だと考えています。今年は「日・カリブ交流年2024」であり、ブラジルがG20の、ペルーがAPECの議長国を務めます。そうした意味でも中南米が世界的に注目される一年になると思いますので、みなさんにもぜひ関心をもってもらいたいです。

中南米（7か国）における対日世論調査結果「信頼関係」

Q. あなたの国の友邦として、今日の日本は信頼できると思うか。



調査対象国：中南米（アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、メキシコ、トリニダード・トバゴ、ボリビア、ウルグアイ）
調査期間：2020年10-12月
調査対象者：18歳～64歳の男女2,300人（ブラジル、メキシコは各国400人、その他各国300人）
調査機関：Edelman Data x Intelligence
調査方法：インターネット調査（トリニダード・トバゴにて一部面接調査併用）

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。



Photo: Koichi Inura

経済成長を続ける一方で首都圏での通勤時間帯の激しい交通渋滞が課題となっているパナマでは、円借款による中南米初のモノレール整備プロジェクトが現在進行中。これにより交通機能の改善と二酸化炭素排出の削減に貢献できる。



中南米について

詳細や関連情報については、外務省作成のPDF（左のQRコード）をご確認ください。